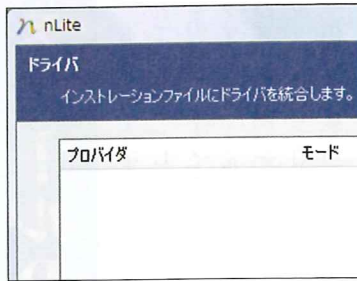


リカバリーCD作成手順

- インストールCDの中身をHDDにコピー
- サービスパックやホットフィックスを適用
- コピーした中身から不要な機能を削る
- ISOからCDやDVDに焼いて完成!

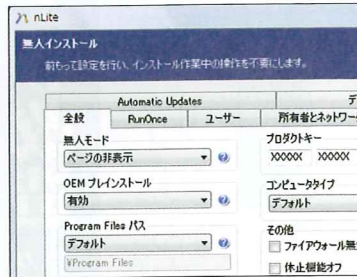
vLiteの4大機能

標準外ドライバーを統合



RAIDやグラフィックなど、ドライバを統合し、インストール後の手間を軽減する。

OSインストールの自動化



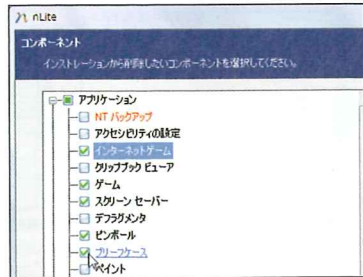
プロダクトキーや地域設定の入力など、インストール途中で必要な入力を実行できるように設定する。

ホットフィックスを適用

名前	説明	言語
KB938127	Security Update	日本語
KB939063	Security Update	日本語
IE7-WindowsXP-x86-jpn	Self-Extracting Cabinet	日本語
KB938161	Hotfix Package	日本語
KB933579	Hotfix Package	日本語
KB933539	Update Package	日本語
KB885836	Security Update	日本語
KB896185	Security Update	日本語
KB897472	Security Update	日本語
KB898302	Security Update	日本語
KB898309	Security Update	日本語

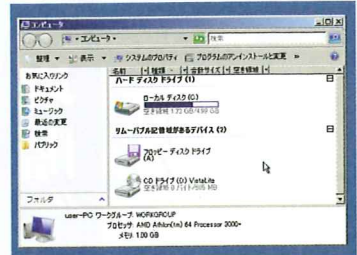
ダウンロードしておいたサービスパックやホットフィックスの適用で、OSを最新状態に。

不要なソフト・機能を削除



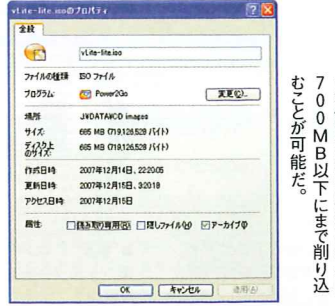
通常では削除しないシステム関係のソフトや言語パックなど、使わないものを極限まで削り込める。

システムは最低限に



エアロも壁紙も削っているため、インストール後の画面は非常にシンプルだ。

CDインストールも可能に!?



最低限必要な機能に絞れば、700MB以下にまで削り込むことが可能だ。

ビスタインストール直後のOSファイルサイズ

インストールサイズで比較	ファイルサイズ
ノーマルビスタ	9.74GB
vLiteビスタ	4.36GB

インストールサイズで比較

アクセサリやゲーム、壁紙などを中心に、可能な限り削減してみたところ、インストール後のHDD使用量が9.74GBから4.36GBまで減少。通常削れない機能まで削れるのが魅力だ。

ビスタのインストールにかかった時間

インストール時間比較	インストール時間
ノーマルビスタ	24分
vLiteビスタ	15分

インストール時間比較

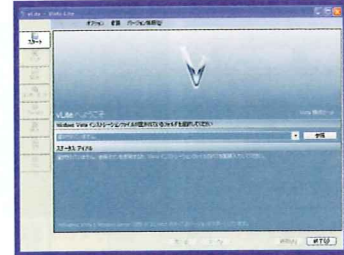
展開するファイルが少ないため、インストールにかかる時間が短縮される。実際に試してみたところ、Ultimateで約24分かかっていたインストール時間が、6割の約15分にまで短縮した。

カスタマイズソフト『vLite』基本のキホン

XPでも動作する
カスタマイズツール!

ビスタのインストールDVDをカスタマイズできるのが『vLite』。XP上でも動作するため、ビスタのインストール前でも利用できる。気に入ったカスタマイズができるまで何度も試すことになり、メディアは書き換え可能なRWを使うのがオススメだ。

XP上でも動作できる!



■ビスタのカスタマイズツールとはいえ、XPで動作。別PCで作成することも可能だ。

メディアは“RW”を使おう



■繰り返し使えるDVD-RWなら、何度やり直してもメディアはムダにならない。

vLiteで極限に挑戦!!

ビスタのシステムは
どこまで小さくできる??

vLiteでどこまで削れるかを試してみたところ、約2.5GBあったインストールファイルが700MBまで軽量化。CDからのインストールも可能となった。OSのHDD使用量は半分以下、約5GBも小さくなり、モバイルノートにも余裕でインストールできるようになった。また、OSが使えるようになるまでのインストール時間の短縮は約9分だが、ホットフィックス適用のウィンドウズアップデートが必要ないため、実質時間ではさらに差が広がる。

最低限必要な機能に絞れば、700MB以下にまで削り込むことが可能だ。



完全に手放しで
インストールする!!

プロダクトキーや地域設定など、インストール途中で必要な入力を事前に設定。PCの前から離れていても、自動でインストールが完了できる。



アップデートの
待ち時間をゼロに

無印XPなど、古いバージョンのOSはアップデートファイルが多く、とにかく時間がかかる。事前に統合して待ち時間をゼロにしよう。



ドライバーFDを
使わずインストール

インストールに必要なRAIDドライバーを統合すれば、ドライバーFDが不要に。周辺機器のドライバも入れれば、インストール後の作業も楽だ。



OSの動作を
軽くてキビキビに

非力なPCにインストールするのなら、不要な機能を削除。OSの動作が軽くなるだけでなく、HDDの必要量が少なくなるというメリットがある。

改造インストールCD・DVDをつくらせて快適にしよう!!

フリーソフト1本で インストールを4割短縮! XPとVistaの インストールCD 大改造する

文 宮里圭介 イラスト 今井ヨージ 図版 古川誠之 撮影 高橋智

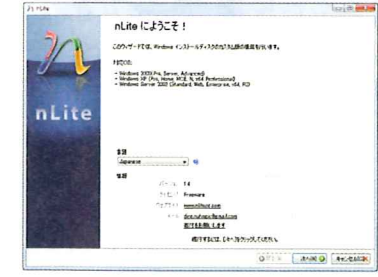
自分のPCに合わせたインストールCDが作れる!

vLite

●<http://www.vlite.net/>

nLite

●<http://www.nliteos.com/>



- 作者 Dino Nuhagic (nuhi)
- 対応OS Windows 2000・XP・Vista

ウィンドウズのインストールCD・DVDをカスタマイズし、不要な標準機能を削ったり、ドライバを追加できるフリーソフト。ビスタをカスタマイズする『vLite』とXP用の『nLite』がある。

OSセットアップの
手間と時間を削減!

OSのインストールといえば、まず標準設定でセットアップしてからグラフィックや周辺機器のドライバをインストール。その後OSのアップデートを実行し、多くのホットフィックス(修正プログラム)を適用するというのが通常の手順だ。インストール作業そのものは難しくないが、途中で地域設定など入力が必要になる項目があり、完全に放っておけないのがネック。また、ホットフィックスが多くて適用に時間がかかってしまえば、結局使えるようになるまで2~3時間かかるというのも珍しくない。こういった苦痛から解放してくれるのがフリーソフトの『nLite』と『vLite』だ。自動インストールだけでなく、ドライバやホットフィックスの統合、不要な標準機能の削除まで可能。自分だけのインストールCD・DVDが簡単に作成できる。

XPとVistaのインストールCDを大改造する

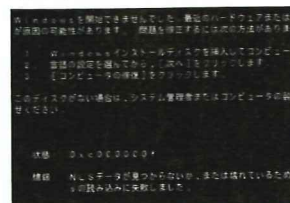
削除できるビスタの機能と動作への影響

(○ 削ってオーケー、△ 要注意、× 絶対残す)

機能名	動作への影響	概要
Speechサポート	○	音声入力などに使われるもの。あまり使用しない機能だが451.80MBもある。
ウェルカムセンター	○	起動時に表示される新機能案内。特に便利でもないため、削除しても問題ない。
Mobility Center	○	無線LANや電源管理といったノート用ツール。デスクトップなら必要ない。
ゲーム全般	○	暇つぶしにしか使われないだけに、すべて削除しても問題ない。
Task Scheduler	×	自動起動などに使われるスケジューラー。使うソフトが多いので残しておくたい。
WebDAV	△	ブラウザーを使ったファイル管理機能。ファイル共有などで使われることがある。
Windows Search	△	インデックスを使った高速ファイル検索。ほかのデスクトップ検索を使うなら不要。
Tablet PC	○	ペン入力などタブレット機能がいらなければ不要。391.54MBとサイズも大きい。
Windows SAT	△	古いパソコンの性能を調べるツール。エロロを使うなら必要ないなら不要。
Windows転送ツール	○	古いPCからデータ、設定の引継ぎに使うもの。使うのであれば必要なもの。
マニュアルインストール	○	DVDから起動してセットアップする必要がある。削除してしまう。
自然言語処理	○	人と話さような感覚で検索できる機能。検索そのものをあまり使わないなら不要。
イーサネットワークアダプタ	△	インストール直後からネットワークが使えるほうが便利のため、残しておく。
プリンタ	○	自分でプリンタドライバを追加したなら、削除しても動作に支障はない。
Internet Explorer	×	アップデートなど、システムと密接に関わるために削除しないほうが無難。
Windowsメール	○	他のメールソフトを使うなら削除。消しても動作には影響しない。
FAXサポート	○	FAXを使わなければ不要。特に個人であればFAXを使うことはほとんどない。
Windowsポータブルデバイス	△	ウィンドウズモバイル機との同期に使用。利用するなら残しておく。
MediaCenter	○	メディアの再生にメディアセンターを使う予定がなければ削除してしまう。
Windows Mediaコーデック	×	WMVファイルの再生などがなくなる。残しておくほうが無難だ。
日本語	×	ビスタを日本語で使うのに必要となる言語パック。削除せずに残しておく。
韓国語、中国語など	△	削除しても平気だが、ひとつは残さないIMEの動作がおかしくなる。

① コンポーネント削除でビスタを軽量化
vLite 最大の特色ともいえるのが、通常削除できないソフトや機能まで削除できること。各コンポーネントは詳細な説明が出るので、いらないものかどうか判断しやすい。なお、削除すると不具合の出るものについては茶色で表示されているので、ムリに削除しないほうがいいだろう。便利なのが、そのコンポーネントをインストールした場合の容量も表示してくれること。サイズが大きいものから優先して削除すれば、効率よくスリム化できる。

削りすぎるとエラーも…… 詳細な説明もチェック

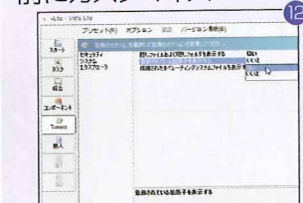


■必要のないまで削ってしまうと、エラーとなってインストールに失敗する。茶色表示のものを削るときは慎重に。



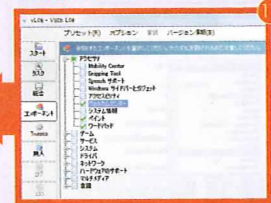
■カーソルを重ねると、そのコンポーネントの詳細と必要とする容量とがチェックできる。大きいものから削除しよう。

"Tweaks"でインストール前にカスタマイズ



■隠しファイルの表示設定やUACの無効化など、インストール後に変更したい項目を最初から設定しておく。

削除するコンポーネントを指定する



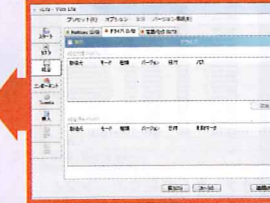
■アクセサリやゲームなど、削除したいものを選択。説明が表示されるほか、削除すると危険なものは茶色になっている。

削除したくない機能やソフトを選択する



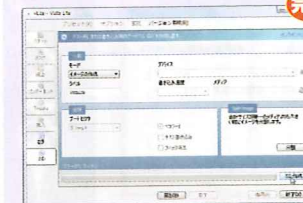
■コンポーネントのカスタマイズで間違っていると削除してしまうよう、保護しておく機能やソフトを選択する。

標準外のドライバを選択して統合する



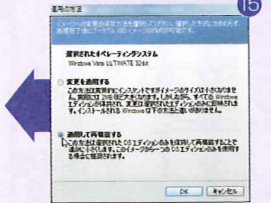
■RAIDなど、OSインストール時に必要となるドライバは、統合しておくことで最初から対応できるようになる。

イメージ、もしくはメディアを作成する



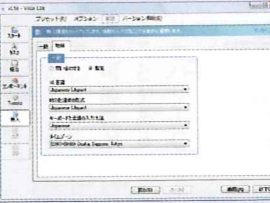
■カスタマイズしたインストールDVDはISOイメージとして保存できるほか、直接DVDとしてメディアに書き込める。

インストールDVDのサイズを小さくする



■不要なエディションを削除することで、サイズを小さくできる。再構築には10分~数十分ほど時間がかかる。

"地域設定"も忘れずに設定しておこう!



■タブ切り替えでわかりづらいが、地域設定も自動化可能。"指定"を選んでから各項目を設定してやる。

プロダクトキーの自動入力を設定する

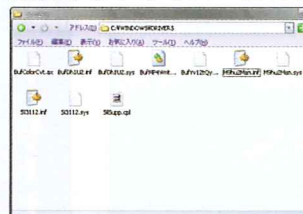


■インストール中の入力を省くため、プロダクトキーを設定。ユーザー作成もスキップすると、入力がほとんどなくなる。

統合しておきたいドライバー

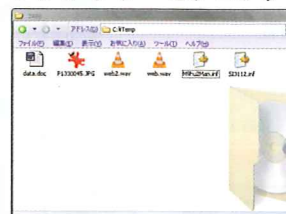
ハードウェア	おまなダウンロード先
チップセット	http://downloadcenter.intel.com/
SATA、RAID	http://www.siliconimage.com/
GPU	http://jp.nvidia.com/
サウンドボード	http://www.realtek.com.tw/
無線LAN	http://buffalo.jp/
プリンター	http://cweb.canon.jp/e-support/software/

使用中のドライバーはここ



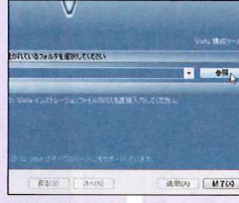
■現在使っているドライバーの多くは、"C:\WINDOWS\DRIVERS"に格納されている。

テンポラリーをチェック



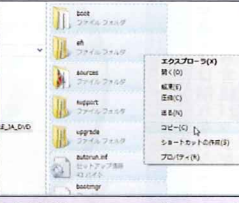
■Cドライブ直下の"Temp"フォルダーに、インストールしたドライバーがあることも。

vLiteで作業用フォルダーを指定



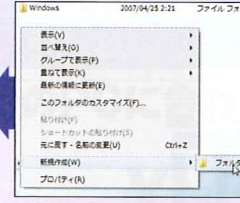
■DVDの内容がコピーされたフォルダーをvLiteで指定。"参照"ボタンを使って選択できる。

インストールDVDのファイルをコピー



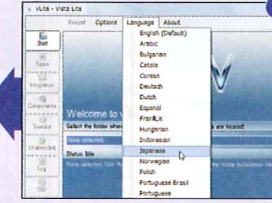
■先ほど作ったフォルダーへ、インストールDVDの中身をコピー。すべてのファイルをコピーしよう。

作業用のフォルダーを作成しておく



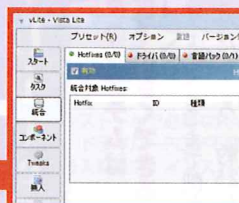
■インストールDVDのファイルをコピーする先のフォルダーを作成。これが作業フォルダーとなる。

言語表示を英語から"日本語"に変更



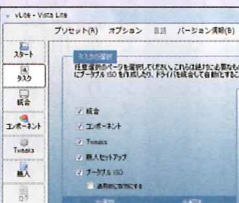
■初回起動時のみ、表示言語の変更が必要。操作は"Language"から"Japanese"を選ぶだけ。

"ホットフィックス"を適用する



■"有効"にチェックをいれ、"追加"ボタンから必要なものを選択することで登録できる。

作業項目の選択とウィザードの開始



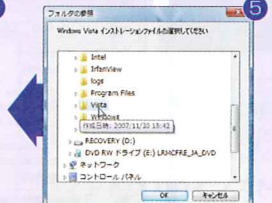
■vLiteで何をカスタマイズするかを選択。すべての項目にチェックを入れておけばオーケーだ。

カスタマイズするエディションを選ぶ



■最初に行うのが、どのエディションを基本にするか。自分の購入したエディションを選ぶ。

フォルダーを選択して"次へ"を押す



■"参照"ボタンを使ったところ。作業フォルダーを選んだ後は、"次へ"ボタンをクリックしよう。

HD-PSG160U2

●バッファロー ●03-5781-7260
●http://buffalo.jp/
実売価格 1万6800円前後



■耐衝撃性に優れたモバイルHDD。仮想CD/DVD機能を装備し、ISOイメージを登録可能。もちろん起動することもできる。

仮想CDに登録するだけ

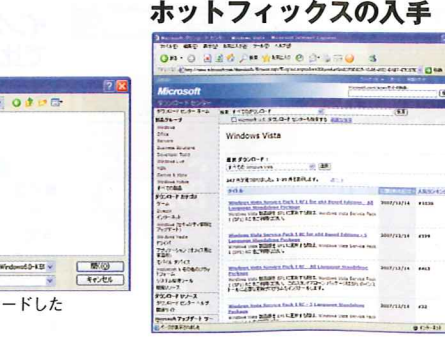


■専用ユーティリティからISOイメージを登録すれば、仮想CDとして動作してくれる。

DVDを使わずにビスタをインストール
気に入ったインストールDVDが完成するまで何度もテストすることになるが、そのたびにメディアを消費してはもったいない。DVD-RWを使えばメディアの再利用はできるものの、書き込みなどの手間がかかるのは同じだ。そこでオススメなのが、仮想CD機能をもったHDDだ。ISOファイルを登録することであたかも光学ドライブかのように動作してくれるうえ、仮想CDから起動し、ビスタのインストールを行なうことも可能だ。複数のインストールイメージを作成し、用途に応じて使い分けすることも簡単だ。

ホットフィックスの入手

ホットフィックスは、マイクロソフトのダウンロードセンターからすべてのWindows Vista"を選ぶことでダウンロードできる。セキュリティ更新プログラム"を中心に入手しておこう。ひとつずつダウンロードするのは手間だという人は、まだ製品候補のRC版しか出ていないがSP1を使うのもいいだろう。ただし、SP1の統合はまだできないため、インストール後に手動で実行することになる。



■マイクロソフトのサイトにある"ダウンロードセンター"から入手できる。

⑧ ホットフィックスを入手して適用する

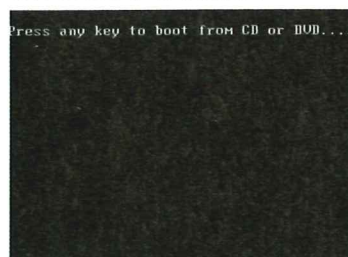
ホットフィックスは、マイクロソフトのダウンロードセンターからすべてのWindows Vista"を選ぶことでダウンロードできる。セキュリティ更新プログラム"を中心に入手しておこう。ひとつずつダウンロードするのは手間だという人は、まだ製品候補のRC版しか出ていないがSP1を使うのもいいだろう。ただし、SP1の統合はまだできないため、インストール後に手動で実行することになる。

ビスタ インストールDVD改造"完全攻略"

画面でわかるカスタマイズ手順

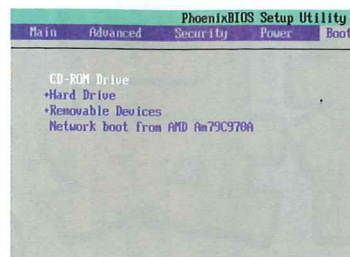
XPとVistaのインストールCDを大改造する

CDをセットして起動!



■通常のインストールCDと同様、何かキーを押すことでインストーラーが起動する。

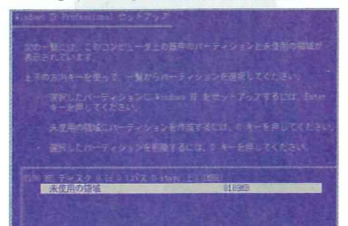
BIOSでCDブートに設定



■BIOSで起動順位を変更し、HDDよりも先にCDから起動できるように設定する。

XPの場合

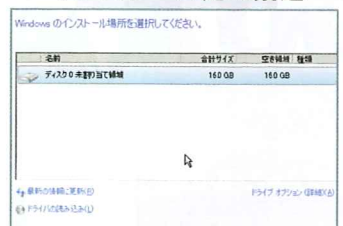
インストール先の指定



■インストール先となるHDDを選ぶとファイルのコピーが開始。自動で再起動される。

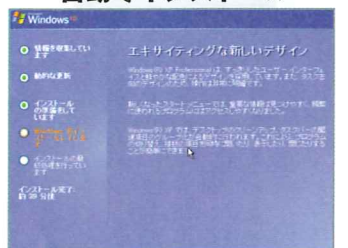
Vistaの場合

インストール先の指定



■OSをインストールするHDDを選択。ドライバーが統合されていれば、RAIDも指定可能。

自動でインストール



■自動インストールを設定しておけば、インストールが中断される入力項目は一切ない。

ユーザーを作成する



■次に入力が必要となるのはユーザー作成。スキップする設定なら、最後まで入力はない。

自動インストール設定をしつかりと行なっておけば、必要なのはHDDの指定やパーティションの設定くらいで、あとはすべて自動放っておくだけでインストールが完了するはずだ。なお、作成できるのはあくまでインストールCDであって、環境を元に戻すリカバリCDではない。そのため、メールなどのデータや、インストールしてあるソフトは一切含まれない。こういったものは自分でバックアップを取り、インストール後に戻してやる必要がある。

データのバックアップは自分で!



大容量HDDにデータを保存

マイドキュメントに保存された自作データやメールなどといったデータだけでなく、音楽や動画ファイルも忘れずに保存。大容量のUSB HDDを使うと一気に保存できて便利。

このデータを保存!

- メール
- ブラウザのお気に入り
- デスクトップにあるファイル
- マイドキュメントの下
- ユーザーフォルダー下の'Application Data'
- ユーザーフォルダー下の'Local Settings'

別のHDDを利用

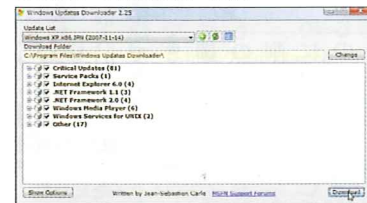
このコンピュータに保存されているファイル
共有ドキュメント Administrator のドキュメント
ハードディスクドライブ
ローカルディスク (C:) ローカルディスク (D:)
■OS領域とは別のHDDやパーティションのデータなら引き続き利用可能。

自作のCD/DVDからインストールする

ほぼ自動で動くため操作は必要なし!

Windows Updates Downloader

- http://wud.jcarle.com/
- 作者 Jean-Sebastien Carle
- 対応OS Windows XP-Vista

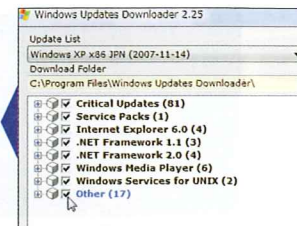


■OSの更新で必要となる膨大な数のホットフィックスを自動でダウンロードしてくれるソフト。

100以上もあるXPのホットフィックスファイルを自動でダウンロードしてくれるフリーソフトが「Windows Updates Downloader」だ。使い方は簡単で、ツールをインストールした後は、サイトで公開されているインストールCDに合う設定ファイルを読み込ませ、保存先を指定してから「Download」ボタンを押すだけだ。なお、英語版ならビスタ用の設定ファイルもあるが、日本語用はまだない。

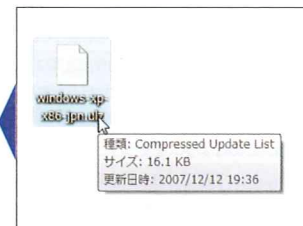
nLiteで「WMP11」を統合するときは、フリーソフトの「WMP11 Slipstreamer」も必要となる。こちらは、インストールしておけば統合時にnLiteが自動で使ってくれるため、特に設定は必要ない。

必要なファイルを選択



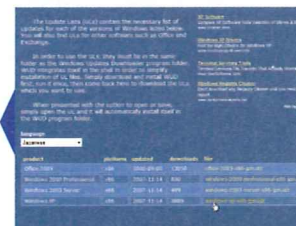
■ダウンロード先を指定したら、ダウンロードするホットフィックスを選ぶ。すべて選んでおけばまず問題ない。

設定を読み込ませて起動



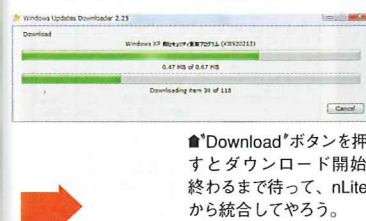
■ダウンロードした設定ファイルをダブルクリック。これで、設定が読み込まれた状態で本体が起動する。

設定ファイルを入力



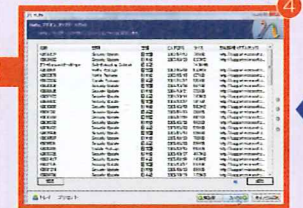
■専用ページで「Japanese」を選択し、XPをクリック。英語版ならビスタ用もあるが、日本語版ではまだない。

ダウンロード開始!



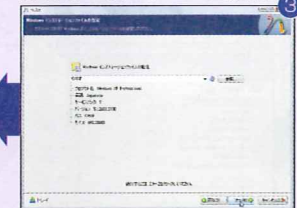
■「Download」ボタンを押すとダウンロード開始。終わるまで待つ、nLiteから統合してやろう。

ホットフィックスを統合



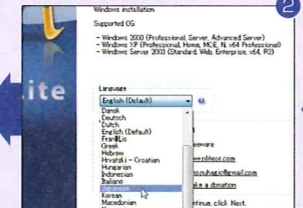
■「追加」ボタンから必要なホットフィックスを選択して追加。別画面となるが、SPも統合可能。

作業フォルダーを指定



■先ほどの、CDの中身をコピーしたフォルダーを指定する。サービスパックやバージョンが確認できる。

nLiteを起動する



■初回起動時だけ、「Language」から「Japanese」を選択。これ以後、表示が日本語となる。

XPのCDをコピー



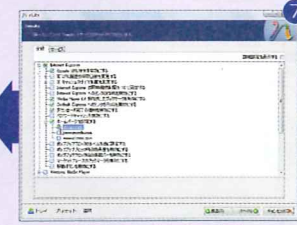
■XPのインストールCDにあるファイルを、HDDの作業フォルダーの中にすべてコピーする。

CDを作成して完成!



■カスタマイズが終わればメディアを作成して完成だ。ライティング機能を使えば、直接作成できる。

OSをカスタマイズする



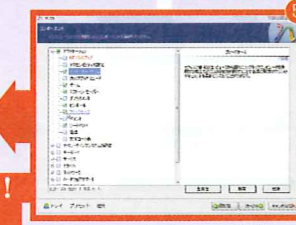
■IEの動作設定など、先に設定しておきたい項目を変更。タスクバーやデスクトップも変更できる。

自動インストール設定



■プロダクトキーやユーザー、地域設定など、途中で入力が必要となるものはすべて設定しよう。

コンポーネントの削除



■不要なコンポーネントを削除し、スリム化しよう。削除すると困りそうなものは赤字で表示される。

XPよりも古いウィンドウズでも使える? nLiteでオーケー

ウィンドウズ2000はXPとほぼ同じ機能ながら動作が軽量という点もあり、好んで使うユーザーも多い。nLiteなら、2000の改造にも対応している。SPやホットフィックスの数が多いだけに、インストール時間の短縮に活躍してくれるだろう。

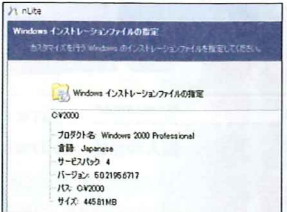
なお、98やMeといったさらに古いOSはさすがにサポートされていない。これらのOSは、いまのPCでは動作が軽く、ファイルサイズも小さいだけに、通常のセットアップとアップデイトの実行でもそれほど時間はかからない。

自分だけの「SP5」



■03年リリースの「SP4」を最後に、2000用のサービスパックは終了した。大量のホットフィックスを自分で適用し、自分だけのSP5をつくらう。

2000を改造できる!



■XPのカスタマイズに使ったnLiteは、ウィンドウズ2000の改造もサポート。標準では少ないドライバーを投入すると格段に便利になる。

DVDの中身を見てみよう



■「リカバリ-DVD」と書かれたメディアでも、中身は通常のセットアップファイルの場合がある。これなら通常の手順で改造が可能だ。

イメージタイプは改造不可



■vLiteやnLiteは、マイクロソフト標準のウィンドウズインストールCD・DVDを改造するソフト。イメージファイルの改造はできない。

削除できる機能と動作への影響

機能名	動作への影響	概要
NTバックアップ	△	バックアップや復元を標準ソフトに頼らないなら必要ない。
ゲーム	○	基本的に不要だが、暇つぶしにしたいのであれば残しておいても可。
FAT to NTFSコンバータ	○	変換する機会はほとんどないため、削除して問題ない。
Help and Support	○	XPの操作に慣れているならヘルプファイルそのものが必要ない。
ツアー	○	初回起動時に表示される機能紹介。コレを必要とする人はまずいないだろう。
ワトソン博士	○	エラーを報告してくれるだけなので、なくても問題ない。
検索アシスタント	○	検索ウィンドウで表示される。削除しても検索機能そのものは利用可能。
スピーチのサポート	○	音声認識機能。コレを使わないなら削除しても大丈夫。
Windows画像とFAXビューア	△	ユーザー画像が表示されなくなるが、Lunaを使わないなら必要ない。
Western Europe and United States	×	英語表示が基本となっており、削除すると正常に動作しないことも多い。

5 XPの動作を軽くする 削除可能なコンポーネント

ビスタと同様、削りすぎると動作しないインストールCDとなってしまうため、注意が必要だ。容量を減らすなら、アプリケーションを中心にマルチメディア、言語あたりを削除するといいたい。動作を軽くしたければ、サービスパックワークを削る。ただし、赤字で表示される、必要なものを削ると動作が不安定になるので注意。